

2017 年度事業報告書

(2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日)

2017 年度 活動テーマ

三位一体で描く消費環境デザイン ー 消費者・企業・行政で紡ぐ次世代の消費社会 ー

2017 年度は、上記活動テーマのもと以下の内容を中心に活動を行った。

1. 2017 年度活動テーマにもとづき、2016 年度に引き続き消費者志向経営と男女共同参画推進を 2 本柱とする対外発信活動を行いつつ、会員のスキルアップとネットワーク形成を行った。
2. 研究会推進グループは、年間テーマや会員ニーズを反映し、消費者関連(2 回)、マーケティング・ビジネススキル(4 回)、企業見学会(2 回)、会員交流(3 回)等、会員の能力・資質向上とスキルアップのための講演会を開催した。また、来年度迎える設立 40 周年を記念したプレ・イベントとしてのシンポジウムを 12 月に企画・実施した。例年実施の「お客様対応を考える分科会」による「お客様対応基礎講座」については、今年度は月例会の時間を使って会員向けに実施し、コンテンツ見直しのための意見収集を行った。また、電話対応技能検定実施機関の認定を受けて、関西支部を中心に「もしも検定」を実施した。
3. 組織の活性化を図るグループは、新規会員獲得に向けて積極的に活動（企業訪問・説明活動、月例研究会への体験参加の斡旋、聴講者のフォロー等）を行った。また、理事会や研究会等の運営の円滑化に向けて適宜定款施行規則の改定を行った。さらに、40 周年記念事業に向けた OG へのヒアリング活動等を通じて、ヒープの歴史と価値を考える機会を積極的に創出した。
4. 広報グループは、協議会の存在・活動を効果的に広報し価値・認知度を高めるべく、定例の協議会活動、外部での講演活動、会員の表彰、マスコミ掲載状況等を迅速にリリースした。また、1 年間の活動を広報誌「レポートヒープ」に取りまとめ、会員企業へのフィードバックや協議会の認知度向上、新規会員獲得にかかわる情報提供活動に寄与した。
5. 調査グループは、「調査・消費者関連情報分科会」をマネジメントし、40 周年記念冊子作成に向けて、情報収集とコンテンツ作成を進めると共に協議会全体の冊子作成活動の取りまとめを行った。
6. 関西支部は、会員全員による月例研究会の運営を実施し、企画・運営のスキルアップを図った。行政とも連携した A C A P との合同セミナーや神戸市との連携・情報交換等、他団体・行政等との交流も積極的に行った。また、スキルアップセミナーや企業見学等、会員が職場で実践できるスキル・知識を身につける講座を行った。また、関西学院大学・神戸学院大学への講座提供により、大学との連携も継続して行った。また、内閣府男女共同参画局における平成 29 年度「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」の共催団体としてエントリーし、採択されたことを受け、10 月に大阪（関西支部）で内閣府との共催シンポジウムを実施した。
7. 九州支部は、「探そう！誰も置き去りにしない“〇〇”～想像力を磨こう」をテーマに掲げて活動した。また、内閣府男女共同参画局における平成 29 年度「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」の共催団体としてエントリーし、採択されたことを受け、12 月に福岡（九州支部）で、1 月に熊本（九州支部）でそれぞれ内閣府との共催シンポジウムを実施した。
8. 「お客様の声を活かした取り組み 55 事例／33 事例」等を活用した講演会、各種情報発信については、自治体や大学に向けて計 22 回実施した。
9. 事務局については、例年に引き続き運営費を抑えて、活動費を確保する等、業務の効率化を推進し、会員活動を充実させるべく最適化を図った。

2017 年度は、年間テーマにもとづいて月例研究会・分科会を開催し、会員が協議会の運営や研究活動に主体的に携わることで、東京・関西・九州が一体感を持って活動することができた。

2017 年度代表理事 宮木 由貴子

I. 2017 年度事業実績

【東京本部・グループ活動】

1. 企画グループ

代表理事の諮問機関として、協議会運営が円滑かつ効果的に行われるよう努めるとともに、行政・他団体等と積極的な情報交換を行い。協議会の活動を社会にアピールした。

(1) 理事会の開催

準備理事会	3 月 29 日(水)		
理事会	4 月 14 日(金)	5 月 11 日(木)	6 月 13 日(火)
	7 月 13 日(木)	8 月 8 日(火)	9 月 13 日(水)
	10 月 12 日(木)	11 月 10 日(金)	12 月 7 日(木)
	1 月 11 日(木)	2 月 1 日(木)	3 月 7 日(水)
準備理事会	3 月 27 日(火)		

※3 月は、次年度総会の準備と事業計画確認のため、準備理事会を行った。

(2) 消費者・各種団体・企業等への情報提供・教育活動

協議会がオリジナルで作成した各種事例冊子やマニュアル、各社の事例等を用いて、消費者と企業の連携の必要性や消費者志向経営推進について、情報提供・教育活動を展開した。

(3) 行政・関連団体の主催する会議、委員会、シンポジウム等への出席

以下のとおり、理事・幹事を中心に参加・登壇した。

実施日	内容	主催	出席者
4 月 25 日(火)	内閣府男女共同参画推進連携会議 『次世代への働きかけ』	内閣府男女共同参画局	代表理事 宮木由貴子
5 月 22 日(月)	平成 29 年度消費者 月間シンポジウム・懇談会	消費者庁	代表理事 宮木由貴子 副代表理事 梶原織梨江 副代表理事 鈴木聖子 監事 脇田真知 関西支部長 川口徳子
5 月 22 日(月)	平成 29 年度消費者支援功労者表彰 表彰式	消費者庁	代表理事 宮木由貴子 関西支部長 川口徳子
5 月 30 日(火)	第三回神戸市消費者苦情処理審議会	神戸市 市民参画推進局 市民生活部	関西支部長 川口徳子
6 月 6 日(火)	ベスト消費者サポーター章受賞式	消費者庁(都庁)	代表理事 宮木由貴子 監事 脇田真知
6 月 7 日(水)	神戸市 消費者基本計画評価推進部会	神戸市	関西支部長 川口徳子
6 月 8 日(木)	第 40 回食品表示部会	内閣府消費者委員会	関西支部長 川口徳子
6 月 16 日(金)	(公社) 消費者関連専門家会議 福岡例会	(公社) 消費者関連専門家会議	九州副支部長 西嶋恵理子 九州会員 若松志摩子
6 月 17 日(土)	日本消費者教育学会 関西支部 平成 29 年度研究・実践発表会	日本消費者教育学会 関西支部	関西支部長 川口徳子
6 月 18 日(日)	NACS 西日本支部のつどい	(公社) 消費生活アドバイザー・ コンサルタント・相談員協会 (NACS) 西日本支部	山本千草 (2014 年度関西支部長)

6 月 21 日 (水)	男女共同参画社会づくりに向けての 全国会議および懇親会	内閣府男女共同参画局	代表理事 宮木由貴子
6 月 24 日 (土)	KC' s 通常総会	NPO 法人 消費者支援機構関西	関西支部長 川口徳子
6 月 27 日 (火)	(公社) 消費者関連専門家会議 マインドアップ講座	(公社) 消費者関連専門家会議	代表理事 宮木由貴子 副代表理事 梶原織梨江 副代表理事 鈴木聖子
6 月 29 日 (木)	第 41 回食品表示部会	内閣府消費者委員会	関西支部長 川口徳子
7 月 5 日 (水)	第 19 回神戸市消費生活会議	神戸市 市民参画推進局 市民生活部	関西支部長 川口徳子
7 月 12 日 (水)	第 42 回食品表示部会	内閣府消費者委員会	関西支部長 川口徳子
7 月 21 日 (金)	経産省商務流通サービス審議会との 懇談会	経済産業省	代表理事 宮木由貴子
7 月 28 日 (金)	第 43 回食品表示部会	内閣府消費者委員会	関西支部長 川口徳子
7 月 31 日 (金)	消費者志向経営推進メンバー会合	消費者庁	代表理事 宮木由貴子 副代表理事 梶原織梨江
8 月 25 日 (金)	消費者教育ワークショップ in ヌエック	文部科学省	資料展示
10 月 1 日 (日)	大阪府消費者教育養成講座 企業交流会	大阪府消費生活センター	関西支部長 川口徳子
10 月 14 日 (土) 10 月 15 日 (日)	日本消費者教育学会 第 36 回全国大会	日本消費者教育学会	関西支部長 川口徳子
10 月 18 日 (水)	内閣府男女共同参画推進連携会議 全体会	内閣府男女共同参画局	代表理事 宮木由貴子
11 月 2 日 (木)	消費者教育フェスタ in 柏	文部科学省	資料展示
11 月 10 日 (金)	消費者団体ほか関係団体等との 意見交換会	内閣府 消費者委員会	代表理事 宮木由貴子 副代表理事 梶原織梨江
11 月 19 日 (日)	大阪府消費者教育養成講座 企業交流会	大阪府消費生活センター	関西支部長 川口徳子
11 月 29 日 (水)	中小企業新ものづくり・新サービス展 (大阪会場)	全国中小企業団体中央会	代表理事 宮木由貴子 関西支部長 川口徳子
12 月 1 日 (金)	消費者問題懇話会	(公社) 消費生活アドバイザー・ コンサルタント・相談員協会 (NACS) 西日本支部	関西支部長 川口徳子
12 月 2 日 (土)	消費者教育フェスタ in 北海道	文部科学省	資料展示
12 月 2 日 (土)	日本消費者教育学会 関西支部 役員 会・総会・講演会	日本消費者教育学会 関西支部	関西支部長 川口徳子
12 月 6 日 (水)	中小企業新ものづくり・新サービス展 (東京会場)	全国中小企業団体中央会	代表理事 宮木由貴子
12 月 6 日 (水)	消費者志向経営推進セミナー	消費者庁	関西支部長 川口徳子
12 月 11 日 (月)	第 4 回神戸市消費者苦情処理審議会	神戸市 市民参画推進局 市民生活部	関西支部長 川口徳子
12 月 16 日 (土)	関西支部交流会	全国消費生活相談員協会 関西支部	関西支部長 川口徳子
1 月 22 日 (月)	消費者行政新未来創造オフィス訪問	消費者庁 (徳島県)	代表理事 宮木由貴子 副代表理事 梶原織梨江 関西支部長 川口徳子

			理事 丹野富美恵 監事 脇田真知
1 月 29 日(月)	地方消費者フォーラム in おおさか	消費者庁	関西支部長 川口徳子
2 月 16 日(金)	2018 消費志向経営トップセミナー	(公社) 消費者関連専門家会議	代表理事 宮木由貴子 副代表理事 梶原織梨江
2 月 27 日(火)	平成 29 年度全国消費者フォーラム	独立行政法人国民生活センター	代表理事 宮木由貴子 副代表理事 鈴木聖子 理事 藤脇智恵子 関西支部長 川口徳子
2 月 28 日(金)	内閣府男女共同参画推進連携会議 『経済分野における女性の活躍推進』 チーム会合	内閣府男女共同参画局	代表理事 宮木由貴子
3 月 1 日(木)	新たな J A S 制度説明会 (神戸会場)	農林水産省	関西支部長 川口徳子
3 月 3 日(土)	大学生協・スマセワークショップ	全国大学生協連、スマセレ	関西支部長 川口徳子
3 月 22 日(木)	消費者志向経営推進メンバー会合	消費者庁	代表理事 宮木由貴子 副代表理事 梶原織梨江
3 月 24 日(土)	日本消費者教育学会 関西支部 役員会・実行委員会	日本消費者教育学会 関西支部	関西支部長 川口徳子

(4) 平成 30 年度消費者支援功労者表彰等候補者の推薦

消費者支援功労者表彰等候補者の推薦団体として、正会員に対し、消費者支援に貢献している個人・団体を公募し、会員関係者のみならず、消費者支援に貢献した個人・団体の推薦について幅広く検討を行った結果、2017 年 10 月に推薦手続きを行った。

(5) 行政機関との連携

- ・消費者庁については、調査課を窓口 to 消費者志向経営推進組織メンバーとしての活動や、定例となった 6 月の月例会での消費者庁による消費者白書の説明会等を通じて定期的・継続的な情報交換機会を確保し、関係性を強めてきた。また、1 月 22 日には、四国地方を担当する関西支部を中心に消費者庁新未来創造オフィス（徳島）を訪問し、交流を深めた。（消費者庁：日下部英紀参事官、消費者教育・地方協力課 課長補佐 小熊智子氏、小林清香氏／協議会側からの訪問メンバー：日本ヒーブ協議会 代表理事 宮木由貴子、副代表理事 梶原織梨江、理事 丹野富美恵、関西支部長 川口徳子、監事 脇田真知）
- ・内閣府消費者委員会とは、「消費者委員会 消費者団体ほか関係団体等との意見交換会」への招聘・参加のほか、1 月 16 日には黒木理恵事務局長にご挨拶を行った。
- ・内閣府とは、男女共同参画局における男女共同参画推進連携会議への代表理事の参加のほか、昨年度に引き続き「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」への企画提出と採択により、共催でシンポジウムを開催し、さらに岡本審議官をはじめとする男女共同参画局のメンバーとの意見交換等でも連携を深めた。
- ・経済産業省とは、経産省商務流通保安グループとの懇談会に代表理事が参加したほか、総会にて住田審議官（当時）にご挨拶をいただく等、ご支援をいただいた。
- ・中小企業庁とは、ネットワークを形成し、中小企業庁主催のイベント「中小企業新ものづくり・新サービス展」において女性活躍の視点を盛り込むようご提案する等、連携を行った。
- ・農林水産省とは、関西支部・九州支部を中心に関連情報の交換を行う等、食品関係の面での連携を行っている。

(6) 税理士訪問・相談

10 月 11 日、3 月 16 日に染谷税理士を訪問し、会計および事業活動の進捗状況を報告し、会計の適正運用について確認・相談を実施した。

2. 研究会推進グループ

会員の能力・資質の向上およびネットワーク醸成に向け、以下の取り組みを通じて会員の積極的な参画意識を高め、協議会参加のメリットを実感するとともに、会員相互のコミュニケーション強化・支援を図った。

(1) 2017 年度（第 15 回）総会・公開講演会・情報交換会の運営

新体制での新たなスタートを迎えるべく、会員や会員上司・同僚、行政等の方々をお迎えし公開講演会・情報交換会を行った。また、聴覚障害者の支援として「UD トーク」の使用を試み、ダイバーシティ推進を意識した会の運営を図った。

<公開講演会・情報交換会詳細>

開催日：4 月 14 日（金） 会場：都市センターホテル

総合司会：林真由美 アサヒビール（株） 情報交換会司会：岡本有可 日本ハム食品（株）

参加者：公開講演会 118 名 情報交換会 96 名

公開講演会テーマ：持続可能な社会のために、力を合わせて

「今、なぜ、消費者志向経営か。なぜ、行政が取り組むのか」

講師：消費者庁 長官 岡村和美氏

消費者庁 消費者調査課 課長 澤井景子氏

(2) 月例研究会の運営

- ・2017 年度活動方針に基づき、①消費者関連（4 月・6 月）②マーケティング・ビジネススキル（8 月・11 月・1 月・2 月）③企業見学会（7 月・10 月）④会員交流（5 月・8 月・3 月）等のテーマを選択し、随時会員の希望等も収集しつつ、スキルアップにつながるよう講演内容の充実を図った。
- ・会員だけでなく会員上司・同僚が参加できるようセミ公開講座を実施し、参加者数増加を図った。
- ・各分科会にて持ち回りで月例研究会レポートを作成してホームページに掲載し、情報共有を図った。

【月例研究会 詳細】

	実施日・会場	名称	講演テーマ・講師	出席者数
1	5 月 24 日（水） 明治安田生命保険 相互会社 （新東陽町ビル）	5 月度月例研究会	◆2017 年度運営体制説明会 キックオフミーティング ◆会員交流茶話会	運営体制説明 38 名 茶話会 37 名
2	6 月 21 日（水） 明治安田生命保険 相互会社 （新東陽町ビル）	6 月度月例研究会	◆分科会活動 キックオフミーティング ◆セミ公開講座 ・消費者白書について 消費者庁 消費者調査課 澤井景子氏 ・平成 29 年度消費者支援功労者表彰「ベスト 消費者サポーター章」受賞 （株）販売促進研究所 三田まり子氏	分科会 39 名 セミ公開講座 49 名

3	7 月 26 日(水) 花王 (株) (花王ミュージアム)	7 月度月例研究会 (企業見学会)	◆花王ミュージアム見学 ◆花王生活者コミュニケーションセンターの活動について 花王 (株) 大竹正子氏	企業見学会 52 名
4	8 月 8 日(火) 明治安田生命保険 相互会社 (新東陽町ビル)	8 月度月例研究会	◆分科会活動 ◆セミ公開講座 ・変化が激しい時代の「先を読む」 ～シナリオ・プランニングのススメ～ (株) グリーンフィールドコンサルティング 西村行功氏	分科会 セミ公開講座 37 名 48 名
5	9 月 27 日(水) 明治安田生命保険 相互会社 (新東陽町ビル)	9 月度月例研究会	◆集中分科会	集中分科会 40 名
6	10 月 20 日(金) 株式会社湖池屋 関東工場	10 月度月例研究会 (企業見学会)	◆工場見学 ◆原点に立ち未来へ向けての商品作り (株) 湖池屋 青野日出美氏	企業見学会 36 名
7	11 月 17 日(金) 明治安田生命保険 相互会社 (新東陽町ビル)	11 月度月例研究会	◆分科会活動 ◆セミ公開講座 ・お客様対応を考える分科会による「お客様対応基礎講座」と「見方・見え方・伝え方 ～“あるある”からみるコミュニケーション～」 《お客様対応を考える分科会メンバー》 資生堂ジャパン (株) 永野晶子 タカナシ乳業 (株) 山本晶子 西川産業 (株) 吉川育恵 ライオン (株) 土屋ゆかり (株) 第一生命経済研究所 宮木由貴子	分科会 セミ公開講座 30 名 43 名
8	1 月 23 日(火) 明治安田生命保険 相互会社 (新東陽町ビル)	1 月度月例研究会	◆分科会活動 ◆セミ公開講座 ・お客様に「わかりやすい」情報発信をするために (一社) ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会 (UCDA) 武田一孝氏	分科会活動 セミ公開講座 26 名 50 名
9	2 月 21 日(水) 明治安田生命保険 相互会社 (新東陽町ビル)	2 月度月例研究会	◆分科会活動 ◆セミ公開講座 ・ビジネスシーンで役立つカラーとデザインの使い方 ベストカラーコム 香咲ハルミ氏	分科会 セミ公開講座 30 名 37 名
10	3 月 14 日(水) 明治安田生命保険 相互会社 (新東陽町ビル)	特別月例研究会	◆分科会活動 ◆正会員限定講座 ・ビジネスシーンで活用できる好印象向上講座 (株) カネボウ化粧品 高田夕美氏 今原まゆみ氏・古田美雪氏・堀田怜氏	分科会 正会員限定講座 28 名 27 名
11	3 月 23 日(金) 明治安田生命保険 相互会社 (新東陽町ビル)	3 月度月例研究会	◆分科会活動 ◆分科会活動報告会 ◆会員交流会	分科会 報告会 交流会 33 名 36 名 28 名

(3) 40 周年記念事業

40周年記念事業の一環として公開講演会(シンポジウム)を開催した。会員だけではなく、ヒーブOG、賛助会員企業、行政等より多数参加いただき、40周年以降の今後の10年を見通すヒントを得る機会となった。

<シンポジウム詳細>

開催日：12 月 15 日(金) 会場：MY PLAZA ホール

参加者：公開講演会 78 名

基調講演：経済産業省 商務・サービスグループ 消費経済企画室長 伊奈友子氏
レナ・ジャポン・インスティテュート (株) 代表取締役 蟹瀬令子氏

パネルディスカッション：

◆パネラー

(株) アンデルセン・パン生活文化研究所 常務取締役 磯部進也氏
アサヒグループホールディングス (株) CSR 部門 ゼネラルマネジャー 鈴木敦子氏
レナ・ジャポン・インスティテュート (株) 代表取締役 蟹瀬令子氏

◆コーディネーター

日本ヒーブ協議会 監事 一般財団法人サンスター財団 企画室調査担当部長 脇田真知

(4) 分科会の運営

- ・効率化と内容の充実化を図るため運営グループと分科会活動を一体化させて運営を行った。
- ・毎月の分科会活動では、互いに情報提供や議論を積極的に行い、生活の質の向上に必要な課題・問題点を共有化し、3 月度月例研究会では 1 年間の分科会活動の発表会を実施した。

- ① 月例会企画・運営分科会
- ② 調査・消費者関連情報分科会
- ③ お客様対応を考える分科会
- ④ 商品・サービス研究分科会

3. 組織の活性化を図るグループ

協議会の基盤整備ならびに会員の積極的な活動参画に向けて以下の活動に取り組んだ。

(1) 2017 年度 (第 15 回) 総会の運営

役割		担当
司会	総合司会	林真由美 アサヒビール (株)
	情報交換会司会	岡本有可 日本ハム食品 (株)
議長団	議長	土江里衣子 アロン化成 (株)
	副議長	小松早苗 アルソア本社 (株)
	書記	伊藤千織 キリン (株)
報告者	2016 年度事業報告	2016 年度代表理事：宮木由貴子 (株) 第一生命経済研究所
	2016 年度決算報告	2016 年度会計：川口徳子 日本ハム (株)
	監事による事業及び会計監査報告	監事：高野逸子 アフラック 監事：脇田真知 (一財) サンスター財団
	2017 年度役員選任	選挙管理委員長：上田稚子 (株) アンデルセン・パン生活文化研究所
	2017 年度事業計画	2017 年度代表理事：宮木由貴子 (株) 第一生命経済研究所
	2017 年度予算計画	2017 年度会計：梶原織梨江 日本生命保険 (相)

(2) 会員の管理と拡大

- ・新規会員獲得に向けて積極的な取り組みを行った。月例研究会講演会を戦略的に利用する会員企業以外の聴講を認める定款施行規則第 3 条を活用して聴講者を募り、当日およびその後のフォローを行った。
- ・異業種交流のメリットを活かすために、6 月に会員名簿の情報更新を行った。併せて、会員の保有資格や特技等も調査を行い、会員の推薦・講師派遣に向けての会員データ構築を継続した。

(3) 会員継続および新規加入への働きかけ

協議会の活動について説明し、会員継続および新規加入等の働きかけを積極的に行った。

- ・総会やシンポジウムに参加いただいた企業を中心に、新規加入に向けたフォローを行った。
- ・賛助会員企業および会員企業に対して、活動への理解を得て継続を依頼した。

(4) 定款施行規則の改定

定款施行規則第3条（会員の特典）表1および、第16条（6）関西支部（7）九州支部の運営委員に対する情報共有を追加し、定款施行規則（第15版）を2018年2月1日に発行した。

(5) 交流会の開催

- ・東京本部、関西支部、九州支部で一律に交流会費の予算計上を行い、会員同士の交流機会を促進した。
- ・東京本部では、月例研究会等にあわせて、分科会別交流会を1回、全体交流会を1回（3月）実施した。

(6) 会員へのガイダンス

協議会に関する理解を深めるため、今年度の活動方針、協議会の組織、運営方法の変更について、5月度月例研究会のキックオフミーティングにて、代表理事より新入会員を含む会員を対象に説明を行った。

(7) 理事会だよりの発行

理事会の議題の中からトピックスをまとめ、会員に報告した。

(8) 理事・監事選挙

- ・2018年度役員選出のための選挙管理委員会を発足させ、選挙活動が滞りなく進むよう補佐した。

【選挙管理委員会】

	支部	氏名	会社名
委員長	東京	三田まり子	(株) 販売促進研究所
委員	東京	志保沢久子	味の素AGF(株)
委員	東京	杉本美穂	ライオン(株)
委員	関西	大塚礼子	アース製菓(株)
委員	九州	難波裕扶子	南日本ハム(株)

- ・選挙の結果、代表理事候補者1名、留任理事候補者5名、新任理事候補者8名、留任監事候補者1名が信任された。

4. 広報グループ

協議会の認知度向上のために会の内外へ情報発信を行うという役割のもと、次の活動を行った。

(1) 「レポートヒーブ」「What is HEIB?」の発行

機関誌「レポートヒーブ」を年度内に発行し、1年間の活動報告を行った。また、「What is HEIB?」を年度内に発行し、会員だけでなく非会員企業へのPRに活用することができた。

(2) ホームページの運営

日本ヒーブ協議会の存在・活動を効果的に広報し、協議会価値・認知度を高めた。

＜ヒーブ NEWS 発行＞

【タイトル】

- ・2017 年 11 月 20 日：「第 36 回男女共同参画推進連携会議 全体会議」に日本ヒーブ協議会 宮木代表理事が参加しました
- ・2017 年 11 月 15 日：「消費者委員会委員と消費者団体ほか関係団体等との意見交換会」に日本ヒーブ協議会が参加しました
- ・2017 年 6 月 9 日：正会員の三田まり子さんが、平成 29 年度消費者支援功労者表彰「ベスト消費者サポーター章」を受賞しました
- ・2017 年 5 月 26 日：日本ヒーブ協議会が、平成 29 年度消費者支援功労者表彰「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞いたしました

（３）講演会等

実施日	講座名／主催	講演テーマ	ヒーブ講師
5 月 19 日(金)	「消費者のつどい」 岡山市主催	「あなたの声企業が変え、社会を変える」 ～お客様の声を活かした取り組み 55 事例/33 事例から～	高野逸子 アブラック
5 月 25 日(木)	関西学院大学 経済学部 経済事情 E 「市場経済と消費者問題」第 7 回	「企業と生活者をつなぐ ～消費者市民社会・消費者志向経営の実現にむけて～」	川口徳子 日本ハム（株）
5 月 27 日(土)	NPO 法人消費者サポートネット 和歌山 消費者セミナー	「消費者の声で商品は良くなる ～食品メーカーの顧客満足・感動への取り組み～」	川口徳子 日本ハム（株）
6 月 1 日(木)	韓国消費者院 高齢消費者政策の国際セミナー	「日本の高齢者市場の現状と 消費者問題への企業の対応」	川口徳子 日本ハム（株）
7 月 2 日(日)	兵庫県・大学生協 関西北陸事業連合・スマセレ主催	「キャリアを通じて感じたこと」 「消費者市民社会と消費者志向経営の実現に向けて」	川口徳子 日本ハム（株）
7 月 3 日(月)	お茶の水女子大学大学院 食品栄養科学コース専攻 講座	「消費者視点をもって働く HEIB の活動」 「一般社団法人 日本ヒーブ協議会 ～ヒーブ（HEIB） ＝Home Economists in Business（企業内家政学士）～」	中村 尚美 日新製糖（株） 宮木由貴子 （株）第一生命 経済研究所
7 月 6 日(木)	コミュニティラジオ天神 「シゴトの幸福論」 ゲスト出演	「女性の暮らしを考えよう」 ～日本ヒーブ協議会の活動から～	宮木由貴子 （株）第一生命 経済研究所
8 月 27 日(日)	大阪府消費生活センター 「大学生期における消費者教育 推進事業」 「消費者教育リーダー養成講座」	お客様の声を活かした企業の取り組み	川口徳子 日本ハム（株）
8 月 30 日(水)	石川県消費生活支援センター 「消費者セミナー2017」	消費者トラブルの事例の活用 ～消費者市民社会・消費者志向経営に向けて～ （お客様の声を活かした企業の取組事例より）	宮木由貴子 （株）第一生命 経済研究所 川口徳子 日本ハム（株）
9 月 8 日(金)	大学コンソーシアム京都・ 単位互換科目「消費者問題 2017」 〈市場を変える消費者〉第 10 講	消費者と企業の対話から ～消費者市民社会と消費者志向経営の実現に向けて～	川口徳子 日本ハム（株）
9 月 28 日(木)	高知県立消費生活センター 高知県立大学 連携講座 「消費生活講座」第 8 講	私たちの声で商品を変える ～消費者と企業の信頼ある関係をめざして～	川口徳子 日本ハム（株）
10 月 15 日(日)	日本消費者教育学会 第 37 回全国大会	消費者市民社会の実現への 「双方向コミュニケーション」の可能性 ～高齢者・子育て層・大学生と企業での実践より～	川口徳子 日本ハム（株）

10 月 22 日(日)	大阪府消費生活センター 「大学生期における消費者教育 推進事業」 「消費者教育リーダー養成講座 第 2 弾」	お客様の声を活かした企業の取り組み	川口徳子 日本ハム（株）
10 月 24 日(火)	相山女学園大学 現代マネジメント学部 「基幹演習Ⅱ」	「社会人になるための第一歩」 “今、仕事がおもしろい”	高野逸子 アブラック
	相山女学園大学 現代マネジメント学部 「消費者行動論 B」	「あなたの声が企業を変え、社会を変える」 お客様の声を活かした取り組み 55・33 事例から	
11 月 24 日(金)	福井県「事業者と消費者をつなぐ 交流事業」講演会	消費者の声を活かした企業の取り組み ～消費者市民社会と消費者志向経営の実現に向けて～	川口徳子 日本ハム（株）
12 月 11 日(月)	神戸学院大学「現代の社会 (消費者問題)」第 12 講	「生活者と企業をつなぐ～消費者市民社会・ 消費者志向経営の実現に向けて～」	川口徳子 日本ハム（株）
1 月 23 日(火)	岡山大学 教養教育科目 日本国憲法 ①自然科学系	「あなたの声が企業を変え、社会を変える」 ～お客様の声を活かした取り組み 55・33 事例から～	高野逸子 アブラック
	岡山大学 教養教育科目 日本国憲法 ②生命系		
1 月 29 日(月)	平成 29 年度地方消費者フォーラム in おおさか	うちとこの表示はこんなです ～ニッポンハムグループの安全・安心への取り組み～	川口徳子 日本ハム（株）
2 月 22(木)	和歌山大学附属支援学校	「食えること楽しもう！油脂（あぶら）について ～油脂と上手につきあう方法～」	川口徳子 日本ハム（株）
2 月 27 日(火)	国民生活センター 全国消費者フォーラム	次世代の消費者と事業者の相互理解と信頼構築をめざし て～KC's 双方向コミュニケーション研究会での実践活 動より～	川口徳子 日本ハム（株）
3 月 1 日(木)	農林水産消費安全技術センター (FAMIC)神戸センター との意見交換会	仕事と生活の調和を考える -今の時代に求められるワーク・ライフ・シナジーとは-	川口徳子 日本ハム（株）

<出版物・印刷物>

名 称	発行年月	部数	内 容
レポートヒープ	76 号 2018 年 3 月	1,000	今年度のヒープ協議会の活動報告を詳細に紹介。 ヒープ会員の写真やコメントも多く掲載。
What is HEIB?	2018 年 3 月	1,000	日本ヒープ協議会の活動内容や入会案内等を紹介。

<マスコミ等記事掲載【所信表明関連】>

新聞名・誌名	社名・団体名	掲載日	タイトル
消費と生活 (No339)	(株) 消費と生活社	2018 年 1・2 月号	「年頭所感」 代表理事 宮木由貴子
ニッポン消費者新聞	日本消費者新聞社	2018 年 1 月 1 日号	「年頭所感」 代表理事 宮木由貴子
日本消費経済新聞	日本消費経済新聞社	2018 年 1 月 1 日号	「年頭所感」 代表理事 宮木由貴子 関西支部長 川口徳子

<シンポジウム、公開講座、その他>

誌名・タイトル	社名・団体名	掲載日	タイトル
消費と生活 (No341)	(株) 消費と生活社	2017 年 5・6 月号	「ヒープ総会・公開講演会」 消費者志向経営は女性の活躍がカギ
ニッポン消費者新聞	日本消費者新聞社	2017 年 5 月 1 日号	「新年度公開講演会」 来年度創立 40 周年に
季刊オピニオン・プラス	ヒューマン・コミュニケ ーション研究所	2017 年夏号 (Vol. 18)	「日本ヒープ協議会活動レポート」 消費者と企業を結ぶ多彩な活動で 平成 29 年度消費者支援功労者表彰 「内閣府特命担当大臣表彰」を受賞

5. 調査グループ

2017 年度は、日本ヒーブ協議会 40 周年を視野に、ヒーブにとって重要な“視野を広げ「先を見て洞察する」”ことをポイントに取り組み、多くの学びと発見を得た。

情報の収集・習得、調査の基本の研究等を通じて、会員の知識向上を図り、これらの手法を元に、「10 年後の日本の消費環境～“消費者”“消費者を取り巻く社会”はどうなっているか」に関して「世の中」の変化情報を収集・分析するとともに、ヒーブ会員のヒーブ視点情報を加え重要な不確定要素を抽出し 10 年後を描いた。また、一方で、今まで行ってきた「働く女性と暮らしの調査」を総括し、「先を見て洞察する」ことで提案し進化してきたヒーブを再確認し、40 周年事業と連動して 2018 年度発行の「40 周年」冊子に繋げることにした。

(1) 活動形態

「調査・消費者関連情報分科会」として活動を行った。

(2) 活動内容

実施月	内容
5 月	分科会キックオフミーティング（年間活動計画発表）
6 月	・メンバー自己紹介、ヒーブ協議会 40 周年に向けた 2 年スケジュール概要説明 ・今年度の分科会活動予定の確認・検討 ・「マーケティング情報収集セミナー」 - ービジネスに必要な情報とは何かー - 日本能率協会総合研究所 清田 明生氏
8 月	・40 周年冊子作成とそこでの分科会主要アクション「将来を描く」を確認 ・シナリオ・プランニングに向けての情報棚卸し切り口、カテゴリーの共有化
9 月	集中分科会 ①40 周年プロジェクト進捗状況報告 ②シナリオプランニングアプローチの解説 ③キーメッセージ・サブメッセージからの変化ドライバの抽出
11 月	・40 周年イベント・冊子発行に向けた準備進捗状況説明 ・「働く女性と暮らしの調査」報告書からの提案整理、分析報告
1 月	40 周年冊子についての説明・資料の連携
2 月	・未来創造型アプローチ集中ワークショップ ・「将来を描く」ためのシナリオの考え方の情報共有等
3 月	未来創造型アプローチ集中ワークショップ

【支部活動】

1. 関西支部

本年度テーマ「三位一体で描く消費環境デザイナー・消費者・企業・行政で紡ぐ次世代の消費社会」に沿い、月例研究会、公開講演会、企業見学会、分科会活動等を通じて、会員が将来を見据えて次の行動を考え、より良い消費社会を描けるような活動に取り組んだ。

10 月には、内閣府・男女共同参画推進連携会議・大学生協関西西北陸事業連合との共催で、「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」としてシンポジウム「次世代の仕事と生活の調和を創造する～学生・就業者・企業の多様な視点で考える～」を開催し、大学生、他団体、行政等から多くの方々に参加いただいた。大変魅力的な 5 名の講師による多様な立場からの事例リレーで視野を広げ、その後のヒープカフェ（ワールドカフェ）では、参加者全員で「次世代の仕事と生活の調和」について活発な意見交換を行い、様々な角度から理解を深めることができた。

企業見学会や講演会において多様な企業事例を学び、今日求められている消費者志向経営と持続可能な社会に向けた課題や、次世代の消費や社会を見通すための知識と想像力を得る機会を創出した。

また、スキルアップセミナーとしては、8 月には電話応対技能検定実施機関の認定を受けて「もしも検定」を実施し、コミュニケーションスキルを学んだ。さらに、1 月には思考・感情のオーガナイズセミナーを開催し、会員が職場や様々な場面で実践できるスキルを身につけた。

月例研究会の運営においては、関西支部の正会員を 3 グループに分け、各グループのリーダー・サブリーダーを中心に活動することで、組織運営についてのスキルアップを図った。この方式により、会員全員が月例研究会の企画立案から報告書作成といった形で運営に参画した。それにより、企画・遂行力、組織運営力、課題解決力等を身につけるとともに、ヒープの強みである業態・職種を超えたネットワークを活用し、会員一人ひとりのレベルアップ・キャリアアップに取り組んだ。

ヒープ視点での消費者教育では、行政・消費者団体・大学等と連携して「産・官・学・消」の産業界の立場から、大阪府・兵庫県・京都府・和歌山県・石川県・福井県・高知県等関西支部エリアの各地で講義を行った。

【関西支部運営委員】

支部長	川口徳子	日本ハム（株）
運営委員		
リーダー	松島知子	住友生命保険（相）
	龍麻衣	（株） Mizkan Partners
	大塚礼子	アース製薬（株）
サブリーダー	多田麻衣子	第一生命保険（株）
	道盛久美子	江崎グリコ（株）
	小林ゆき	日本生命保険（相）
会計	山本千草	パナソニック（株）

<活動実績>

（1）月例研究会活動

①月例研究会

- ・会員一人ひとりがヒープに求められている資質である現状把握力・問題発見力・判断力、問題解決力・

プレゼンテーション力等様々な能力の向上を目指し、講演会、企業見学、スキルアップセミナーをバランスよく実施することができた。

- ・企業家ミュージアム見学や企業見学では、見学・体験・講演を通じて、会員企業の理念に直接触れ、ヒーブならではの企業見学会を開催することができ、大変有意義であった。
- ・11 月には、ACAP と合同で合同月例会を開催し、他団体や行政等から多くの方々に参加いただき協議会への理解、交流を深めることができた。

②「運営スタッフ」制度

- ・引き続き、「会員全員による月例研究会の運営」を目指し、関西支部の正会員全員を 3 グループに分け、各グループのリーダー・サブリーダーを中心に、企画立案から報告書作成まで推進し、組織運営スキルを身に付けるとともに、会員間のコミュニケーションをより深め、相互に影響しあえる関係を構築することができた。

③月例研究会の記録

- ・月例研究会の内容は、レポートやアンケート結果等でまとめて会員に報告し、研究会活動で得た情報の定着を図った。

④月例研究会でのディスカッション

- ・ヒーブの活動を通じて会員一人ひとりが、よりレベルアップ・スキルアップを図るために、2 月度の月例研究会では、本年度の振り返りと次年度に向けての計画、運営について積極的にディスカッションを行った。

⑤分科会活動

- ・「お客様対応を考える分科会」「商品・サービス研究分科会」を立ち上げ、同じ目的意識のメンバーでの意見交換や事例共有の機会を創出し、会員の業務への反映を試みた。

【月例研究会・公開講座 詳細】

	実施日・会場	名称	講演テーマ・講師	出席者数
1	5 月 16 日(火) 大阪市中央公会堂	関西支部大会 公開講演会 情報交換会	◆ガイダンスミーティング ◆関西支部大会 ◆公開講演会 【Challenge with Dream】(チャレンジ ウィズ ドリーム) ～夢の実現に向けチャレンジ～ (株) 北海道日本ハムファイターズ 代表取締役社長 竹田憲宗氏 ◆情報交換会	ガイダンスミーティング 10 名 支部大会 22 名 公開講演会 60 名 情報交換会 42 名
2	6 月 20 日(火) 第一生命保険 (株)	6 月度月例研究会 情報交換会	◆情報交換ランチ ◆会員のお仕事紹介 ◆月例運営の説明、運営グループミーティング	情報交換会 15 名 月例研究会 16 名
3	7 月 19 日(水) 大阪産業創造館	7 月度月例研究会 企業見学会	大阪企業家ミュージアム ◆講演会「大阪発のヒット商品」 ◆ビデオ上映と大阪企業家ミュージアムの見学 ◆振り返り・連絡事項	見学会 20 名 講演会 20 名
4	8 月 2 日(水) 日本ハム (株)	8 月度月例研究会	◆ビジネスコミュニケーション スキルアップセミナー 「電話応対・ビジネスコミュニケーションのエキスパートを目指す」 日本ハム (株) お客様サービス部 山下みどり氏 ◆もしもし検定 4 級 日本ハム (株) お客様サービス部 山下みどり氏 (株) コンシェルジュ 植村知佐子 ※両者ともに、指導者級 ◆ミーティング・事務連絡	セミナー 18 名 もしもし検定 15 名

5	9 月 22 日(金) 第一生命保険 (株)	9 月度月例研究会	◆講演会「IDEA PARK」の取り組みについて (株) 良品計画 くらしの研究所コーディネーター 萩原富三郎氏 ◆ヒーブカフェ 「『IDEA PARK』の取り組みで、取り入れたいと思ったもの、またそう感じた理由は？」 「私たちがお客様の声を商品・サービスに活かしたいと思うのはなぜなのか？」 (株) ダスキン 大石純子氏	講演会 30 名 ヒーブカフェ 30 名
6	10 月 27 日(金) 大阪産業創造館	内閣府・大学生協共 催セミナー 事例リレー ヒーブカフェ 情報交換会	◆事例リレー (株) マザーネット 代表取締役 上田理恵子氏 甲南大学生生活協同組合 専務理事 内田真紀子氏 ファザーリング・ジャパン 顧問 大阪教育大学准教授 小崎恭弘氏 江崎グリコ(株) 経営企画本部 経営企画部 国内経営 推進グループ 中谷真紀子氏 (株) Mizkan Partners 龍麻衣 ◆ヒーブカフェ 15:30~16:50 ファシリテーション: ダスキン 大石純子氏 ◆情報交換会 17:10~18:40	公開講演会 39 名 ワークショップ 37 名 情報交換会 24 名
7	11 月 28 日(火) OMM ビル	ACAP・ヒーブ 合同月例研究会 情報交換会	◆講演①消費者志向経営の取り組みについて 「明治における消費者志向経営の取り組み」 (株) 明治 コミュニケーション本部 お客様相談部 部長 大橋潤二氏 「明治の食育活動」 (株) 明治 コミュニケーション本部 広報部 ダイレクトコミュニケーショングループ 飯泉千寿子氏 ◆講演②「消費者委員会の機能と活かし方」 内閣府 消費者委員会 事務局長 黒木理恵氏 ◆情報交換会	講演会 22 名 情報交換会 16 名 (ヒーブ側のみ)
8	12 月 7 日(木) 第一生命保険 (株)	12 月度 集中分科会 お客様対応を 考える分科会	「各社で起きるシニアトラブルを知る」 「高齢者対応についての知識を深める」分科会 ◆事例発表 (1 人 15 分) ◆「高齢者対応」模擬研修 (株) コンシェルジュ 植村知佐子 ◆高齢者疑似体験 第一生命保険(株) 清水佑美	分科会 8 名
9	12 月 21 日(木) 大同生命保険 (株)	12 月度 集中分科会 商品・サービス 研究分科会	商品・サービスの満足度向上の検証方法 (お客様の声の収集方法について、顧客満足向上の活動事例) ◆東京での「商品・サービス研究分科会」の経緯と取組について ◆事例発表 「お客様の声の収集方法」、「顧客満足向上の活動事例」 ◆意見交換、次回のテーマ、スケジュールの決定	分科会 6 名
10	1 月 24 日(水) 住友生命相互会 社	1 月度月例研究会 スキルアップセミ ナー	◆思考・感情のオーガナイズセミナー 「やる気・元気・勇気は出せる！～思考と感情の整理が進む 3 つのコツ～」 一般社団法人 日本ライフオーガナイザー協会 認定講師 国分典子氏 ◆分科会ミーティング、連絡事項	情講演会 16 名 分科会 13 名
11	2 月 21 日(水) 日本ハム(株)	2 月度月例研究会	◆ふれあいランチ ◆分科会活動報告 ◆日本ハム(株) お客様サービス室見学 ◆2017 年度の振り返り、2018 年度計画・予算	ふれあいランチ 15 名 分科会活動報告・ 見学・振り返り等 16 名
12	3 月 14 日(水) 小林一三記念館	3 月度月例研究会 企業見学会	◆記念館見学 ◆講演会 阪急文化財団 学芸課 課長 仙海義之氏 ◆運営ミーティング	見学会 13 名

(2) 広報活動

他団体・行政・大学・日本消費者教育学会との交流や、各団体等との協働による日本ヒーブ協議会の情報発信や消費者教育活動等を行った。詳細については(4)を参照。

(3) 組織活動

①ガイダンスミーティング

- ・5月の支部大会時に新入会員を対象にガイダンスミーティングを実施し、日本ヒーブ協議会についての理解を深めた。

②運営ミーティング

- ・6月度月例会で「月例研究会運営マニュアル」の説明を行い、関西支部の運営方法への理解を図り、円滑なチーム運営を行った。
- ・2017年度の関西支部の活動・運営についてのアンケート（振り返りシート）を行い、2月度月例会で2017年度の振り返りと2018年度の計画を話し合い、会員からの要望や課題を反映させた。

③情報交換会

- ・「支部大会」「内閣府共催セミナー」「ACAP 合同月例会」において情報交換会、「6月度月例研究会」「2月度月例研究会」では情報交換（ふれあい）ランチを実施し、会員間および他企業・関連団体との交流を図った。

④お仕事紹介

- ・6月度月例研究会で「お仕事紹介」を実施し、会員同士の仕事内容への理解を深めた。

(4) 行政・関連団体の主催する懇談会・研究会・記念式典等への参画

実施日	内容	主催	出席者
5月25日(木)	関西学院大学 経済事情E講座 「市場経済と消費者問題」 第7講	神戸市 関西学院大学	関西支部長 川口徳子 山本千草(2014年度関西支部長)
5月27日(土)	消費者サポートネット和歌山 消費者セミナー	NPO 法人 消費者サポートネット和歌山	関西支部長 川口徳子
5月30日(火)	神戸市消費者苦情処理審議会	神戸市 市民参画推進局 市民生活部	関西支部長 川口徳子
6月1日(木)	韓国消費者院 30周年記念 高齢消費者政策の国際セミナー	韓国消費者院	関西支部長 川口徳子
6月7日(水)	神戸市 消費者基本計画評価推進部会	神戸市 市民参画推進局 市民生活部	関西支部長 川口徳子
6月8日(木)	消費者委員会 第40回食品表示部会	内閣府 消費者委員会	関西支部長 川口徳子
6月17日(土)	日本消費者教育学会 関西支部 平成29年度研究・実践発表会	日本消費者教育学会 関西支部	関西支部長 川口徳子
6月18日(日)	NACS 西日本支部のつどい	(公社)消費生活アドバイザー・ コンサルタント・相談員協会 (NSCS) 西日本支部	山本千草(2014年度関西支部長)
6月24日(土)	KC's 通常総会	NPO 法人 消費者支援機構関西	関西支部長 川口徳子
6月29日(木)	消費者委員会第41回食品表示部 会	内閣府 消費者委員会	関西支部長 川口徳子
7月2日(日)	Challenge to Change ～築こういい関係、 つなごういい社会～ ワークショップ	兵庫県・大学生協阪神北陸事業 連合・学生団体スマセレ	関西支部長 川口徳子
7月5日(水)	第19回神戸市消費生活会議	神戸市 市民参画推進局 市民生活部	関西支部長 川口徳子

7 月 12 日(水)	消費者委員会 第 42 回食品表示部会	内閣府 消費者委員会	関西支部長 川口徳子
7 月 28 日(金)	消費者委員会 第 43 回食品表示部会	内閣府 消費者委員会	関西支部長 川口徳子
8 月 27 日(日)	大学生期における 消費者教育推進事業 消費者教育リーダー養成講座 実践講座	大阪府消費生活センター	関西支部長 川口徳子
8 月 30 日(水)	石川県 消費者セミナー2017	石川県消費生活支援センター	代表理事 宮木由貴子 関西支部長 川口徳子
9 月 8 日(金)	大学コンソーシアム京都・ 単位互換科目「消費者問題 2017」	大学コンソーシアム京都、 同志社大学、 コンシューマーズ京都	関西支部長 川口徳子
9 月 28 日(木)	高知県立消費生活センター、 高知県立大学連携講座 「消費生活講座」第 8 講	高知県立消費生活センター、 高知県立大学	関西支部長 川口徳子
10 月 1 日(日)	大阪府消費者教育養成講座 企業交流会	大阪府	関西支部長 川口徳子
10 月 7 日(土)	上映会&ワークショップ	全国消費生活相談員協会 関西支部	関西支部長 川口徳子
10 月 14 日(土) 10 月 15 日(日)	日本消費者教育学会 第 3 7 回全国大会	日本消費者教育学会	関西支部長 川口徳子
10 月 22 日(日)	大学生期における 消費者教育推進事業 消費者教育リーダー養成講座 実践講座	大阪府消費生活センター	関西支部長 川口徳子
11 月 19 日(日)	大阪府消費者教育養成講座 企業交流会	大阪府消費生活センター	関西支部長 川口徳子
11 月 24 日(金)	事業者と消費者をつなぐ 交流事業	福井県安全環境部 県民安全課	関西支部長 川口徳子
12 月 1 日(金)	NACS 消費者問題懇話会	消費生活アドバイザー・ コンサルタント・相談員協会	関西支部長 川口徳子
12 月 2 日(土)	日本消費者教育学会 関西支部総会・講演会	日本消費者教育学会 関西支部	関西支部長 川口徳子
12 月 6 日(水)	消費者志向経営推進セミナー	消費者庁	関西支部長 川口徳子
12 月 11 日(月)	神戸市消費者苦情処理審議会	神戸市 市民参画推進局 市民生活部	関西支部長 川口徳子
12 月 11 日(月)	神戸学院大学「現代の社会 (消費者問題)」第 12 講	神戸市 神戸学院大学	関西支部長 川口徳子 山本千草(2014年度関西支部長)
1 月 17 日(水)	(公社) 消費者関連専門家会議 西日本支部 賀詞交歓会	(公社) 消費者関連専門家会議 西日本支部	運営委員 龍麻衣
1 月 22 日(月)	消費者行政新未来創造オフィス 見学	消費者庁消費者行政 新未来創造オフィス	代表理事 宮木由貴子 副代表理事 梶原 織梨花 理事 丹野 富美恵 監事 脇田 真知 関西支部長 川口徳子
1 月 29 日(月)	平成 29 年度 地方消費者フォーラム in おおさか	地方消費者フォーラム 近畿ブロック実行委員会、 消費者庁	関西支部長 川口徳子
2 月 22 日(木)	和歌山大学教育学部附属 特別支援学校 高等部 1~3 合同 食育講座	和歌山大学教育学部附属 特別支援学校	関西支部長 川口徳子
2 月 23 日(金)	KC's 双方向 コミュニケーションセミナー	NPO 法人 消費者支援機構関西	関西支部長 川口徳子
2 月 27 日(火)	全国消費者フォーラム	国民生活センター	関西支部長 川口徳子
3 月 1 日(木)	新たな J A S 制度説明会 (神戸会場)	農林水産省	関西支部長 川口徳子
3 月 3 日(土)	大学生協・ スマセレワークショップ	兵庫県・ 大学生協阪神北陸事業連合・ スマセレ	関西支部長 川口徳子
3 月 24 日(土)	日本消費者教育学会 関西支部 役員会・実行委員会	日本消費者教育学会 関西支部	関西支部長 川口徳子

(5) 今後の課題

- ①理事およびリーダー・サブリーダーに負担が集中しないように、全員運営体制で月例研究会の運営の実施を行う。
- ②マニュアルや運営方法を見直して、役割分担の明確化と運営の簡素化を行う。
- ③月例研究会の開催日は、期初に年間計画を立案し、参加率の向上を目指す。
- ④6 月には、会員お仕事紹介や情報交換ランチの実施とマニュアル等の運営方法の共有を行い、会員同士の連携強化を図る。
- ⑤2017 年に立ち上げた分科会活動は、関西支部の実態に即した形で会員の要望に合致した活動になるように見直しを行う。
- ⑥電話技能検定（もしもし検定）は、日本ヒーブ協議会として東京・関西・九州横断での運営を行う。
- ⑦2018 年度は関西支部 35 周年の年でもあり、関西エリアでの日本ヒーブ協議会への認知度アップに向け、公開講座、セミ公開講座を実施し、集客、新規会員獲得を図る。
- ⑧時代変化に対応したヒーブ視点の育成、またそれを業務に活用するために、ヒーブ会員ならではのスキルアップと異業種交流を活かした取り組みを検討する。

2. 九州支部

2017 年度は九州支部にクレド「人間力のある企業とは何かを考え、そのために行動します。人間力あふれる地域の生活者として、考え、行動します。一人の女性として、人間力を高めるために行動します。」を設け、『有機的な関係性 (Organic Relation)』構築というキーワードのもと、『探そう！誰も置き去りにしない“〇〇”～想像力を磨こう～』というテーマで活動を行った。

企業の中で、地域で、社会活動の中で“誰も置き去りにされない”ためには何が必要なのかを探るために、人々のニーズを探るためのコミュニケーション能力の向上や、男女共同参画の視点を軸に、月例研究会・スキルアップセミナー・分科会を開催した。

また、九州支部とは初めて内閣府の「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」へ応募して採用され、福岡会場・熊本会場で「働きやすい地域は暮らしやすい！ “九州男女”の共同参画～ワーキングスタイルから考えるまちづくり～」をテーマに内閣府との共催シンポジウムを実施した。

少人数ながら、毎月のようにスキルアップセミナーや分科会を開催することで、外部のファンづくりにも貢献できた年となり、年末に開催した内閣府共催イベントへの外部応援団（※）が実現した。

また、内閣府共催イベントには東京・関西から多くのヒーブ会員が応援に駆けつけ、九州支部会員にとって「ヒーブ」として一緒に活動することの喜びを実感することができたことも大きな収穫となった。

さらに、これも九州支部としては初開催となる“出張ヒーブ”を宮崎県で実施し、宮木代表理事の講演内容を通してヒーブ活動を通じていかに企業にとって有益な情報を届けられるか、また社員教育に有益であるかを体験していただき、会場をご提供いただいた南日本ハム株式会社（会員企業）から高い評価を得ることができた。

【九州支部運営委員】

支部長	花田 泉	クリエイティブオフィス ビーンズ
副支部長	西嶋恵理子	有限会社元気デザイン総合研究所

<活動実績>

(1) 月例研究会・公開講座・ヒープセミナー

2017 年度の公開講座は支部大会における「“誰もおきざりにしない社会”を目指して～コカ・コーラに学ぶ、HAPPY な企業・暮らし・働き方」(ゲスト: コカ・コーラウエスト株式会社 CSV 統括部 お客さま満足推進部 鶴山勝也氏)、スキルアップセミナー「仕事に役立つ ファシリテーション講座 (2 回講座)」(講師: 加留部貴行氏) を実施した。

(2) 分科会

西嶋恵理子氏による「ファシリテーションのためのコミュニケーション講座」は、これまで積み上げてきたファシリテーションの基礎を改めて実感する講座となった。少人数での開催だったため、実践的な内容だったのも好評だった。

(3) 出張ヒープ

南日本ハム株式会社の協力により、同社管理職・社員・グループ会社関係者を対象に、講演会「なぜ今、男女共同参画なのか ～社会・行政・消費者の動向と企業～」(講師: 宮木代表理事) を実施。同社社長も講演会に参加される等、高い評価を得ることができ、2018 年度の活動につなげることができた。

(4) 広報活動

Facebook 等を積極的に活用した広報活動を展開した。

(5) 内閣府共催イベント

昨年の東京の活動を受け、九州支部でも「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」に取り組んだ。

<イベント詳細>

テーマ: “九州男女” の共同参画 ～ワーキングスタイルから考えるまちづくり～

日程・場所: <福岡>平成 29 年 12 月 10 日(日)エルガーラ中ホール

<熊本>平成 30 年 1 月 13 日(土)男女共同参画センターはあもにい

参加者数: <福岡>計 97 名 <熊本>計 74 名

内容:

①パネルディスカッション

「企業の取組事例から、福岡市での働きやすい&暮らしやすい男女共同参画のコンパクトシティを考える」

②ワールドカフェ (ヒープカフェ)

「ワーキングスタイルから考えるまちづくり」全員参加で開催

福岡: 共催・後援・協力

- ・エフコープ生活共同組合・公益財団法人九州経済調査協会・西日本新聞社・西日本リビング新聞社
- ・福岡県・福岡市・福岡商工会議所・NHK福岡放送局・九州朝日放送・RKB毎日放送・コミュニティラジオ天神・西南学院大学・TOTO株式会社・株式会社ふくや
- ・西日本シティ銀行・株式会社フラウ・株式会社アヴァンティ・福岡トヨペット株式会社
- 株式会社安川タクシー・ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社・株式会社バツハベルク・株式会社トライローグ

熊本：共催・後援・協力

- ・西日本新聞社
- ・熊本県・熊本市・熊本商工会議所・熊本県商工会連合会・熊本県立大学・熊本学園大学・NHK 熊本放送局
- ・ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社

特徴：

- ①福岡と熊本 2 都市を同テーマで開催
- ②会議のダイバーシティ（「UD トーク」・聴こえ支援の音声配信「SONORITY」設置）
- ③地域密着型企業のトップをはじめ、地域や男女共同参画の知見者による講演
- ④来場者全員で参加する「ヒーブカフェ」を展開

感想（アンケートより）：

- ・できるものは当社にも活かしたいと感じた。（40 歳代男性・会社員）
- ・今日のことを参考にして取組んでいけそうだ。（40 歳代男性・会社員）
- ・熊本でこのような交流ができるのは大変良かった。（40 歳代女性・会社員）
- ・今後も地域でのシンポジウムを増やしていただきたい。（50 歳代女性・会社員）
- ・初めてこうした会に参加したが、進め方含めて参考になる。各人の意識や立脚点の違いが大きいと感じたが、それこそが男女共同参画の現状ではないか。（50 歳代男性・公務員）
- ・男女共同・平等にするためにも就業規則、他社内規程等を改訂し、社内改革をしていかなければならないと思った。ヒーブカフェでは色々な意見交換を交えることができ、本当に良かった。（20 歳代男性・会社員）

成果と課題：

- ・男性の参加者も多いシンポジウムとなり、意識の高さを感じることができた。
- ・男性側からも、共感かつ具体的に行動しようとする高い意識を共有できた。
- ・男女共同参画には、「地域」というキーワードも欠かせない。
- ・地方の抱えるジレンマを理解すると共に、男女共同参画推進の重要性を認識した。
- ・男女共同参画を推進するヒーブ活動の重要性を認識。○男女共同参画における語り合う場の必要性大。
- ・情報発信の重要性を改めて認識。○九州における情報発信のネットワークづくりの重要性。

【月例研究会・公開講座】

	実施日	会場	名称	内容	参加人数
1	5 月 27 日(土)	エイムアテイン会議室	分科会	ファシリテーションに役立つコミュニケーション基礎講座①	6
2	5 月 30 日(火)	アクロス福岡 円形ホール	支部大会・公開講座	” 誰もおきざりにしない社会” を目指して ～コカ・コーラに学ぶ、HAPPY な企業・暮らし・働き方	40
3	6 月 14 日(水)	アクロス福岡 会議室	月例研究会 スキルアップ セミナー	実践 ファシリテーション講座① ファシリテーションで仕事が変わる	33
4	7 月 1 日(土)	エイムアテイン 会議室	分科会	ファシリテーションに役立つコミュニケーション基礎講座②	5
5	7 月 22 日(土)	エイムアテイン 会議室	運営委員会	内閣府イベント企画会議	4
6	8 月 26 日(土)	シトラス	分科会	内閣府イベント企画会議	3
7	9 月 19 日(火)	アクロス福岡 会議室	スキルアップ セミナー	実践 ファシリテーション講座② ファシリテーションで企業が、地域が変わる	13
8	10 月 6 日(金)	南日本ハム 株式会社	出張ヒーブ	企業見学と宮木代表理事による講演	53

9	12 月 10 日(日)	福岡エルガーラ 中ホール	内閣府 共催事業	シンポジウム＝パネルディスカッション×ヒープカフェ 働きやすい地域は暮らしやすい！「ワーキングスタイルから 考えるまちづくり ～コンパクトシティと”九州男女”の共同参画～	97
10	1 月 13 日(土)	熊本 男女共同 参画センター はあもにい	内閣府 共催事業	シンポジウム＝パネルディスカッション×ヒープカフェ 働きやすい地域は暮らしやすい！「ワーキングスタイルから 考えるまちづくり ～コンパクトシティと”九州男女”の共同参画～	74
11	2 月 10 日(土)	エイムアテイン 会議室	マラソン ミーティング	2017 年度の振り返りと 2018 年度の活動計画づくり	8
12	3 月 19 日(月)	エイムアテイン 会議室	セミ公開講座	今、なぜ消費者志向経営なのか	20

(6) 今後の課題

2017 年度、内閣府共催イベントの開催で得た、新しいネットワークを九州支部の活動に生かし、会員増を目指す。また、会員企業を巻き込んでの月例研究会やイベントの開催を行うことで、ヒープの魅力を体感してもらう機会を増やすことが重要と思われる。同時にヒープの関心の高い男性を賛助会員に獲得し、多様性ある「生活者視点」を活動の中に落とし込んでいくことも 2018 年度の目標としたい。

Ⅱ．組織

2017 年度は、以下の役員および運営グループ等にて運営を行い、理事会を実施し具体的な活動に取り組んだ。

【役員】

代表理事	宮木由貴子	(株) 第一生命経済研究所
副代表理事	梶原織梨江	日本生命保険 (相)
副代表理事	鈴木聖子	明治安田生命保険 (相)
副代表理事	奥田直美	イオンリテール (株)
理事	藤脇智恵子	第一生命保険 (株)
理事	土屋ゆかり	ライオン (株)
理事	丹野富美江	富国生命保険 (相)
理事	有富菜穂子	(株) Mizkan Partners
関西支部		
支部長	川口徳子	日本ハム (株)
九州支部		
支部長	花田泉	クリエイティブオフィス ビーンズ
副支部長	西嶋恵理子	(有) 元気デザイン総合研究所
監事	脇田真知	(一財) サンスター財団
監事	林真由美	アサヒビール (株)

【運営グループ担当理事】

企画グループ	リーダー	宮木由貴子
研究会推進グループ	リーダー	鈴木聖子
組織の活性化を図るグループ	リーダー	梶原織梨江
調査グループ	リーダー	奥田直美
広報グループ	リーダー	藤脇智恵子
関西支部	支部長	川口徳子
九州支部	支部長	花田泉

【会員数】2017 年 3 月 31 日現在

正会員	83 人
うち関西支部	19 人
うち九州支部	6 人
休会	6 人
個人会員	8 人
賛助会員企業数	28 社
特別会員	23 人

【事務局】

〒151-0053
 東京都渋谷区代々木 2 丁目 30 番 4 号 C-002
 TEL 03-6869-0428 Fax 03-6300-6555
 URL <http://www.heib.gr.jp>
 E-mail: heib-jimukyoku@heib.gr.jp
 辻村智恵子、助川文緒

2017年度 収支決算報告書

自 2017年 4月 1日
至 2018年 3月 31日

一般社団法人 日本ヒーブ協議会

1. 一般会計

<収入の部>

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
前 期 繰 越 金	82,125	82,125	0
会 費	5,298,000	4,739,000	559,000
正 会 員	5,100,000	4,595,000	505,000
個 人 会 員	198,000	144,000	54,000
入 会 金	130,000	180,000	△ 50,000
正 会 員	120,000	180,000	△ 60,000
個 人 会 員	10,000	0	10,000
賛 助 会 費	1,550,000	1,600,000	△ 50,000
雑 収 入	1,022,000	1,221,071	△ 199,071
預 貯 金 利 息	1,000	111	889
特 別 例 会 費	735,000	736,400	△ 1,400
そ の 他	286,000	484,560	△ 198,560
収 入 合 計	8,000,000	7,740,071	259,929
総 合 計	8,082,125	7,822,196	259,929

※ 特別例会費内訳

交流会会費

東京本部	260,000
関西支部	291,500
九州支部	0

講演会参加費

東京本部	81,000
関西支部	24,900
九州支部	79,000

< 支出の部 >

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
活動費（東京・関西・九州合計）	3,360,000	2,745,544	614,456
東京	2,270,000	1,679,727	590,273
企画活動	40,000	33,890	6,110
研究会推進活動	1,345,000	1,014,015	330,985
組織の活性化を図る活動	200,000	108,919	91,081
広報活動	685,000	522,903	162,097
調査活動	0	0	0
関西	650,000	696,250	△ 46,250
九州	440,000	369,567	70,433
運 営 費	4,240,000	3,894,153	345,847
地代家賃	610,000	609,120	880
人件費	1,750,000	1,693,546	56,454
税理士報酬	360,000	360,000	0
運賃・通信費	360,000	392,037	△ 32,037
交通費	680,000	450,026	229,974
会議費	20,000	2,268	17,732
消耗品費	160,000	110,420	49,580
印刷費	140,000	133,582	6,418
支払手数料	50,000	47,330	2,670
交際費	10,000	9,289	711
租税公課	90,000	86,535	3,465
雑費	10,000	0	10,000
支 出 合 計	7,600,000	6,639,697	960,303
当 期 剰 余 金		1,100,374	
剰 余 金	482,125	1,182,499	△ 700,374
総 合 計	8,082,125	7,822,196	259,929

2. 特別会計 40周年記念事業積立金

(単位：円)

科 目	金 額
40周年記念事業積立金	1,900,000
支 出	281,897
差 引 残 高	1,618,103

貸 借 対 照 表

2018年 3月 31日現在

一般社団法人 日本ヒーブ協議会

(単位：円)

資産の部		負債及び剰余金の部	
現 金	43,688	預 り 金	34,269
普 通 預 金	11,922,906	未 払 費 用	179,707
前 払 費 用	28,930	前 受 金	716,000
電 話 加 入 権	72,800	基 本 金	7,752,746
保 証 金	35,000	前期繰越正味財産額	82,125
		正味財産増加額	1,100,374
		40周年記念事業積立金	1,618,103
		ホームページ構築積立金	420,000
		調査費積立金	200,000
合 計	12,103,324	合 計	12,103,324

正味財産増減計算書

(2017年4月1日～2018年3月31日)

(単位:円)

科 目	金 額
I 増加の部	
1. 資産増加額	
当期収支差額	1, 100, 374
2. 負債減少額	-
ホームページ構築積立金取崩	420, 000
増加額合計	1, 520, 374
II 減少の部	
1. 資産減少額	-
2. 負債増加額	
40周年記念事業積立金	1, 500, 000
減少額合計	1, 500, 000
当期正味財産減少額	20, 374
前期繰越正味財産額	82, 125
期末正味財産合計額	102, 499

財産目録

2018年3月31日現在

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金 手許有高	43, 688	未払費用 3月給与	179, 707
普通預金 三菱東京UFJ銀行原宿支店	11, 762, 569		
" " (関西支部)	83, 147	前受金 翌期会費	716, 000
" " (九州支部)	77, 190	預り金 源泉所得税	34, 269
前払費用			
" " 関西支部大会会場費手付	15, 700		
" " 九州支部大会会場費手付	13, 230		
流動資産合計	11, 995, 524	流動負債合計	929, 976
2. 固定資産			
保証金 Y. C. S	35, 000		
電話加入権	72, 800		
固定資産合計	107, 800		
資 産 合 計	12, 103, 324	負 債 合 計	929, 976

監査報告書

定款第32条より2017年度の会務並びに会計につき監査を行った結果、
下記のとおり報告いたします。

記

1. 会務は滞りなく運営され、予算の執行状況は適正である。
2. 現金、預金、有価証券については適正、確実に管理保管されている。
3. 帳簿および証拠書類は正確に記入、保存されている。

2018年4月5日

一般社団法人 日本ヒープ協議会

監事

脇田 真知



監事

小野 真由美

